

【プログラム名:働く女性のためのライフロングキャリアコース】

評価項目	自己点検 (実施状況・結果)	自己点検結果に基づく評価 (自己点検に対する判断・補足説明)	自己評価
プログラムの目的・概要 (プログラム実施状況・カリキュラムの妥当性等)	・就労女性のキャリア形成・継続とリーダーシップ育成を目的として、平日夜間・土曜の完全オンライン(Zoom・オンデマンド)にて、キャリアデザインや人材育成、プレゼンテーション、会計やマーケティング等の全14科目を体系的に開講した。 ・授業には、大学教員のほか様々な実務家・実務家教員を配置し、グループワーク、プレゼンテーション、ソフトウェアの実習等を取り入れ、キャリアデザイン力・自己管理能力やビジネススキル実践力養成を目指す体制とした。 ・多様な受講生のキャリア形成に応じて選択できるよう、女性のリーダーシップやキャリア形成を学ぶ選択必修科目と、実践的な知識・スキルを学ぶ選択科目を提供している。 ・受講生からの授業アンケートでは、プレゼンテーション、メンタルヘルス、マーケティングマネジメント、人材育成の導入理論等で「大変理解できた」が約6～8割となった。一方で、会計科目等の専門性が高い科目で「普通」の回答もあり、理解に差が見られたが、全体としては「大変理解できた」「理解できた」が約8割を占めた。 ・受講生(25名)の科目履修状況は、メンタルヘルス(84%・21名)、人材育成の導入理論(84%・21名)、フレッシュアップ金融経済講座(84%・21名)、ライフロング・キャリア・デザイン(80%・20名)、プレゼンテーション(76%・19名)等で極めて高い受講率を記録した。 ・修了アンケートにおける目的達成度は「想像以上(40%)」「できた(8%)」「どちらかといえばできた(48%)」を合わせ、96%(24名)が達成と回答した。	・就労を継続しながら学べる時間割・オンライン設計および実務・内面成長を促すカリキュラム体系が受講生ニーズに合致し、96%という極めて高い目的達成度に結実した。 ・受講生の授業アンケートおよび修了アンケートにおける高評価の実績から、就労女性のキャリア自律を支える教育プログラムとして目標を上回る成果を達成したと判断した。	<基準> S:目標を大きく上回る成果を達成 A:目標を達成し、計画どおり適切に実施されている B:概ね実施されているが、一部に課題があり改善が必要である C:目標達成が不十分であり、改善策の検討・実施が必要。 S
教育成果 (科目の成績評価、修了者の状況等による評価等)	・2024年度入学者25名全員が所定の6.5単位以上を修得し、修了率100%(25名)を達成した。(直近3年間の平均修了率:96%) ・受講生の意識変化:修了アンケートでは「とても変化した(36%・9名)」「変化した(20%・5名)」「少し変化した(36%・9名)」となり、92%(23名)が職業観・人生観の肯定的な変容を実感した。 ・在籍中に管理職へ昇進した事例や、社内提案・業務改善の推進、新たな資格取得(AFP、施工管理技士補等、受講生全体の9割が受講中に何らかの資格を取得)や上位資格への挑戦意欲の醸成など、具体的なキャリア行動への波及効果が確認された。	・仕事と学修の両立という制約下において入学者全員(100%)の修了を達成し、受講生の92%においてキャリア観・職業観の確実な変容をもたらした。 ・管理職登用や職場でのリーダーシップ発揮など、BPプログラムが目指す「職業に必要な能力向上」やキャリア継続・キャリアアップ行動への寄与において目標を上回る成果を上げた。	S
受講生支援 (学修支援体制・支援状況)	・平日夜間や土曜日の開講やオンライン授業・LMS(manaba)の活用により、就労中の女性でも学びやすい環境を整備し、継続的な学び直しとキャリアアップを支援する体制を整備している。 ・多くのグループワークや受講生同士の交流機会の提供、受講ガイダンス、個別カウンセラー面談等の実施や、通信教育課程の聴講、生涯学習センターや連携先講座の特別受講の機会の提供等を行った。 ・カウンセラー面談は、学修上の不安やキャリア・メンタル面でのサポートへの評価が見られた。また、通信教育課程科目の聴講や生涯学習センター講座、図書館利用機会の提供などでは、大学の教育資源を活用できる環境への評価も見られた。 ・修了アンケートにおける目的達成度で全体の96%(24名)が達成と回答し高評価が確認された。	・修了生アンケートからは、異業種・異職種を受講生とのネットワーク形成や、共に学ぶ仲間からの啓発・相互励まし、学習意欲向上や自己肯定感向上へ寄与していることが確認され、支援体制への高評価と判断した。	S
受講生の受け入れ	定員30名に対し、2024年度(第4回生)の実績は申込者数28名、受験者数27名となった。受験者全員に対シリカレント教育委員によるオンライン面接を実施した結果、入学者25名(定員充足率83%)を確保した。 ・入学者数は2021年度(13名)、2022年度(23名)、2023年度(34名)を経て、2024年度は25名を受け入れた。 (第1回生～第4回生の集計:正社員比率78%、経営者・管理職比率26%、平均年齢43.5歳、全国および海外(在住邦人)からの受講)。	・2024年度は定員の8割(83%)を確保し業種・職種・居住地域等多岐にわたる就労女性を受け入れたものの、前年度(34名・定員超過)と比較して志願者・入学者数ともに減少に転じた。 ・安定的な定員充足(100%以上)の維持および志願者の継続的確保に向けて受け入れ体制・条件の検証が必要である。	B
広報活動 (受講生の募集・広報活動)	・パンフレットの作成・配布、大学HP、SNS(X、Instagram、Facebook)での情報発信、Web広告の掲載を行った。 ・出願要件であるオンラインの入学キャリア説明会を幅広い時間帯に設定し、多く行った。 ・2024年度受講生の属性分析(居住地:東京36%、東京除く関東44%、近畿・中部12%、九州・沖縄その他8%)が示す通り、全国規模での募集広報を展開した。 ・2024年度修了生の55%が上司に、33%が同僚に受講を伝えており(計88%)、職場内での認知拡大に寄与した。	・計画された広報媒体の運用により全国からの受講生獲得には寄与したものの、志願者数の前年割れ(37名→28名)を防ぐ直接的効果としては不十分であった。 ・リスキリング市場における就労女性向けプログラムの競合増加に対応し、ターゲット層へのWebマーケティングや企業向け認知拡大など広報戦略の再強化が求められる。	B
組織運営・内部質保証	・全学の教員で構成されるリカレント教育委員会において、科目履修状況および成績評価を適正に点検・審議した。 ・リカレント教育課程外部評価委員会へ第4回生の教育実績および修了生アンケート結果を報告し、外部有識者からの意見を徴収した。 ・授業アンケートや修了生アンケートにおける科目重複の指摘(市場調査論とアンケート分析等)や他コース共通開講に関する意見やコースへの要望等を速やかに点検した。	・学内委員会およびリカレント教育課程外部評価委員会を通じた質保証プロセスが適切に運用されている。 ・点検結果や受講生からのフィードバックを組織的に集約し、カリキュラムの検証・改善へつなげる体制が適切に維持されている。	A